

○ 野口さんの学級では、来月の読書まつりで全校児童に聞かせる朗読劇を発表することになっています。  
題材は、宮沢賢治の「グスコーブドリの伝記」です。  
次の【「グスコーブドリの伝記」あらすじ】を読み、あとの問いに答えましょう。

【「グスコーブドリの伝記」あらすじ】

グスコーブドリは、幼いころに両親をなくした。寒い氣候が続き、農作物がとれなくなつたためだ。

生きのびたブドリは拾われて、まゆから糸をとる仕事についた。しかし、火山の噴火ふんかによって虫たちは死に、まゆはとれなくなつてしまった。次にブドリは、沼ばたけでオリザという植物を育てる仕事についた。しかし、オリザの病氣やひでり※によって、たくさんのオリザをとることはできなかった。

成長したブドリは「みんながあんなにつらい思いをしないで沼ばたけを作れるよう」そして「火山の灰だのひでりだの寒さだのを除くくふうのぞをしたい」と思うようになった。

やがてブドリは、クーパー大博士と知り合い、イーハトーヴ火山局で仕事をするこ  
とになった。火山局では、火山の噴火の向きを変えて近くの町を助けたり、肥料ひりょうをま  
ぜた雨を降らせて農作物の生長を助けたりした。

ある年のことだった。両親をなくしたときのような、寒い氣候がおとずれようとし  
ていた。このままでは、またたくさんの人が死んだり、悲しい思いをしたりすること  
になる。ものも食べずに何日も考え続けたブドリは、クーパー大博士にこうたずねる  
のだった。

カルボナード火山島を噴火させて、地球全体を暖かくできないか、と。

クーパー大博士は、地球を平均で五度ぐらいは暖かくするだろうと答えたが……。

※ ひでり……日照り。雨が降らず、晴れの日ばかり続いて、農作物に必要な  
水がかれること。

「野口さんは、『グスコープドリの伝記』あらずじ」に続く場面を班の友だちといっしょに朗読する  
とになりました。そして、よりよい発表にするために、それぞれが朗読の工夫を考えました。  
次の【朗読の工夫①】、【朗読の工夫②】を読み、あとの問いの答えましよう。

音読の記号

- ・速く読む――
- ・ゆっくり読む――
- ・強調して読む~~~~~
- ・短い間<
- ・長い間>>

【朗読の工夫①】

「先生>>あれ（カルボナード火山島）を今すぐ噴かせられないでしょうか。」  
「それはできるだろう。>>けれども、その仕事に行ったもののうち、最後の一人は<<どうしても逃げられないのでね。」

「先生、私にそれをやらしてください。どうか先生からペンネン先生へお許しの出るようおことばをください。」  
「それはいけない。君はまだ若いし、いまのきみの仕事にかわれるものはそうはない。」  
「>>私のようなものは、これからたくさんできます。<<私よりもっとなんでもできる人が、私よりもっと立派にもっと美しく、仕事をしたり笑ったりしていくのですから。」

私は、ブドリの言葉を、ゆっくり間をとって読みたいと考えています。  
いくらか人々のためとはいえ、自分の命をぎせいにするのはとても不安で苦しいことです。だからこそ「私がやります。」という強い言い方でなく「やらしてください。」という少し弱い表現になったのではないのでしょうか。  
このことから、私は、ブドリが自分の不安と向き合う心情を表現するために、間をとってゆっくり読みたいと考えています。

【朗読の工夫②】

「先生、あれ（カルボナード火山島）を今すぐ噴かせられないでしょうか。」  
「それはできるだろう。>>けれども、その仕事に行ったもののうち、最後の一人は<<どうしても逃げられないのでね。」  
「先生、私にそれをやらしてください。どうか先生からペンネン先生へお許しの出るようおことばをください。」  
「それはいけない。君はまだ若いし、いまのきみの仕事にかわれるものはそうはない。」  
「私のようなものは、これからたくさんできます。私よりもっとなんでもできる人が、私よりもっと立派にもっと美しく、仕事をしたり笑ったりしていくのですから。」

私は、ブドリの言葉を、明るさを強調して読みたいと考えています。  
「私よりもっと」とブドリはくり返しています。これは、ブドリのぎせいにより寒い夏のせいで死なずにすむ人たちと、その人たちが作る未来に希望をもっているといふことです。ブドリは自分のやることに納得しているはずですが、  
だから私は、ブドリの言葉を、強い決意をした様子を表現するために、明るさを強調して読みたいと考えています。

(1) 二つの【朗読の工夫】に共通することは何ですか。あてはまらないものを次の1から4までの中から選び、□に書きましょう。

- 1 間の取り方や声の速さで表現を工夫している。
- 2 登場人物の心情を考えて表現を工夫している。
- 3 台本の形式に直して表現を工夫している。
- 4 具体的な読み方を書きくわえて表現を工夫している。

(2) 二つの【朗読の工夫】は、なぜ大きくちがっているのでしょうか。両方をくらべながら、そのわけを説明しましょう。

|  |
|--|
|  |
|--|

(3) あなたなら、ブドリの次の言葉をどのように朗読しますか。**【条件】**に合わせて表現の工夫を書きましよう。(実際に音読記号などを書きこみながら考えてもかまいません)

「先生、私にそれをやらしてください。どうか先生からペンネン先生へお許しの出るようおことばをください。」

## 【条件】

○ブドリ的心情を根拠（こんぎょ）にすること。

○どのように表現するか具体的に書くこと。

○百字以上百二十字以内で書くこと。

[illegible]

|       |       |
|-------|-------|
| 120 字 | 100 字 |
|-------|-------|

組  
  
番  
  
氏 名